

## まえがき

「水と緑と詩のまち」のキャッチフレーズで知られる私たちの故里<sup>ふるさと</sup>＝前橋は、世界詩人である萩原朔太郎をはじめとした超一流の詩人たちを一齐に産み出した<sup>ところ</sup>処です。こうした詩人たちが同時期に出現し、切磋琢磨しながら成長し、やがてそれぞれの分野でトップに立った場処は、全国に視野を広げてみてもこの前橋しかありません。

どうしてそうだったのかを皆さんと共に追い、各々の詩人がどこの部分で優れているのかをきちんと捉え、そこから派出した素晴らしい事象を記録するために本書は生まれました。

さあ、それではいっしょに「宝の小箱」のふたを開けてみましょう。

## 目次

まえがき	2
第1章 前橋は詩人の宝庫	
第1節 最高峰の詩人たちの出現	4
第2節 なぜ前橋だったのか	4
第2章 詩人たちの業績	
第1節 萩原朔太郎	8
(1) 朔太郎はなぜ世界詩人なのか	
(2) 朔太郎の生涯と文学業績	
第2節 平井晩村	14
(1) すべてのジャンルをこなす天才文学者の誕生	
(2) 文学の開花と哀しい生涯	
第3節 高橋元吉	20
(1) 思索と精神の人の誕生、そして成長	
(2) 戦後、県内の文学を牽引	
第4節 東宮七男	28
(1) 誕生と成長、詩への開眼と開花	
(2) 七男にとっての満州	
(3) 戦後、群馬の文学の中心的存在に	
第5節 萩原恭次郎	35
(1) 希有の詩人の誕生と文学の生成	
(2) アナーキズムの最高峰 詩集『死刑宣告』の誕生	
(3) 郷里での生活と思索と死	
第6節 伊藤信吉	42
(1) プロレタリア詩運動と転向	
(2) 詩を棄て、文芸評論家として生きる	
(3) 43年振りに詩を復活、俳句も創作	
第3章 前橋ゆかりの詩人たち	
第1節 山村暮鳥	53
(1) 哀しい成長期からの脱却	
(2) 伝道師として生き、世紀の詩集『聖三稜玻璃』を出版	
(3) たった一人で歩んだ路	
第2節 大手拓次	58
(1) ボードレールの詩を日本ではじめて翻訳	
(2) サラリーマンを全うした不運の詩人	
第4章 戦後への継承と発展	
第1節 前橋市立図書館の果たした役割	62
第2節 渋谷国忠の残したもの	64
(1) 萩原朔太郎を掘り起こした人	
(2) 朔太郎を全国に知らしめ、「レファレンス」を「参考調査」と翻訳	
第3節 「第16回世界詩人会議日本大会'96前橋」の開催	68
(1) 前橋で開かれるまでの経過のみちすじ	
(2) その概要と今日に残したもの	
あとがき	73
参考・引用文献	75
創刊の辞	78